〈学術的読み物〉

北朝鮮・金剛山観光参加記

崔　　吉　城
人間科学部　人間社会学科　観光文化コース
e-mail:kschoi@toua-u.ac.jp

韓国観光で日本人に人気一番ともいわれるのが板門店観光である。しかしそれは敵対関係からくる緊張を商品化した外国人向けの観光であり，一般的に韓国人には観光化されていない。私は韓国籍者として，数年前までこの観光をすることができなかった。日本人と同乗していたのに下ろされた不快感を強く持っている。

2003年，ソウルから板門店へ，平壌から板門店へ，同時に調査旅行をする機会があった。事前準備として板門店に関する書物や論文，ビデオ映像，カタログなどを収集した。またテープレコダーを購入し，これでガイドの案内などを録音するとともに，旅行の行程はビデオカメラで撮った。

アメリカ人の人類学者R・グリンカーの「国家の『真の敵』非武装地帯の北朝鮮展示」(1995)[1]に私は刺激された。彼の論文はとても良いものであった。これについては既に別稿「朝鮮半島の南北分断と「敵対双方」の観光化」という小論を発表したことがあるのでここでは省略する。[2]

私は朝鮮半島が南北に分断されたことによる南北の対峙，敵対する緊張感，そして閉鎖された「閉ざされた国」(forbidden country)であり，現代の鎖国である北朝鮮を覗(のぞ)くような板門店観光が日本人に楽しまれる本質的な理由を探り続けた。私は板門店観光，展望台観光，トラ山（最終点の駅）とトンネル（北朝鮮側が軍事目的に作ったもの）観光などに参加し，閉鎖された北朝鮮を覗く観光に参加し，調査した。これらはいずれも南北の対峙と緊張を観光商品としている。1950年に勃発した朝鮮戦争は1953年に，休戦または停戦して今に至っている。したがってその休戦線は国境ではなく，戦線ともいえる。ここに南北の対峙と緊張感が発生するのである。南北の政権はこの敵対的緊張感を政治によく利用してきている。長い間韓国の軍事独裁政権はその南北の緊張関係を政治に利用して政権を延長してきた。南北の境界線や非武装地帯の緊張感はJSA（Joint Service Area）をテーマにした映画が現れるほどである。

休戦線における南北関係の唯一の窓口が板門店である。そこでは恒例の軍事停戦委員会が開かれニュースが流れることが多い。原則としてはこの窓口は往来可能な場所ではない。それは国家間の関係であって国民の関係とは無関係だからだ。私は同じ会談室をソウルからと平壌からと入ることができたが，通過することはできなかった。一般的に韓国人にとって北朝鮮を訪問することはもちろん，観光することもできない。

図１　朝鮮半島の地図

図２　平壌の人民広場で筆者

図３　板門店に同行した朝鮮総連幹部たち

金剛山は「名山」として古くから有名である。しかし観光と開発が本格的に始まったのは日本植民地時代であった。イギリス人やドイツ人らが金剛山に足を伸ばし，旅行記などで言及していた少ない秘境であった。1894に韓国を旅行したイサベラバードは金剛山を歴史的に有名な観光地であるという。しかし20世紀初頭まで交通の便が極めて悪く，金剛山を訪れる人もごく少数であった。日本人は風光明媚な景色や温泉，寺院などがある所として金剛山を観光地として開発した。[3] このことは当時の動映像にも紹介されている。たとえば「朝鮮地方」[4] には「半島第一の勝地－金剛山」という字幕が出る。海金剛，九龍滝，岩刻などが見える。弥勒仏という岩刻文字は一画が人間の十倍ぐらいの大きさである。もう一つの映像のTYOSEN[5] はWe are now in Tyosen（朝鮮）という英語のナレーションから始まる。それには金剛山の神渓寺（しんけいさ）の看版と大雄殿の尖塔が映っている。

最近，韓国人に嬉しいニュースが流れた。それは北朝鮮にある金剛山観光である。北朝鮮の領土に踏み込んだ観光と言える。金剛山（標高1,639m）は民族分断という朝鮮半島が持つ特殊な地域に存在している。[6] この山は北側に位置しており，韓国側からは観光することができなかった。北朝鮮にあるいまひとつの「名山」白頭山は，多くの韓国人は中国経由で観光することができたが，金剛山の観光はでなかったのでとても残念に思われていた。

金大中大統領の太陽政策によって北朝鮮と現代グループが金剛山観光を事業化した。2003年９月以降，南北間の軍事境界線を直接越える陸路観光が本格的に開始された。料金は２泊３日で30万ウォン（約３万円）くらいである。

金剛山観光参加

筆者は韓国から金剛山観光に参加するため，日本から申し込んだ。第１日目は，朝早くソウルのホテルからタクシーで出発地である蚕室に向った。観光バスには８人４カップルだけだった。現代グループ職員２人は兄弟，安養でエンジニアリングの夫婦，ある大学の観光経営学科の学生とその母親，そして私と昔の同僚であった。

８時30分に出発して途中にレストランに立ち寄って，巨津港そばの金鋼山コンドミニウムに着いた。２時から受け付けて番号票をもらって，車に乗って臨時出入国事務所に到着した。ここがもう一つの観光地である統一展望台である。本日の参加者がここに全国から集まった。420人余りだという。台湾のテレビのカメラなど３人と通訳の女の方がいて，時々撮影途中中止されたりする。カメラは3.5以下でなければならないということ

図４　Tyosenの映像から金剛山

である。

待合室は無秩序な混雑である。男女別で手続き，私は外国人だからといって別の審査台であった。バスは非舗装道路を走った。両側は有刺鉄線を網のように張りめぐらしたものの内側を走る。左側には線路工事をしている労動兵，北朝鮮軍人が着剣して見守っている。南側海岸はすべて鉄條網が張られているが，北朝鮮側にはそんな施設がない。峠を越えると，現代グループの職員たちが工事をしている所で検問のために全客が降ろされた。続いて北朝鮮の軍人が乗車してきて車内の荷物を検問する。検問する人に声をかけてはいけない，カメラは絶対に出してはいけないという注意をすでに数回聞いた。

車内でガイドの宋氏が自己紹介と運転手を紹介した。運転手は中国朝鮮族吉林から来たという。後に聞いたところでは月給50万ウォンだという。遠方には左右に北朝鮮住民の家屋が見えた。左右に出入口があって窓が４つ５つある。近い道端の家は見えないようにしている。金剛山は見せても民家は見せたくないのだろうか。あるいは人民のプライバシーを守るためであろうか。ガイドは「…をしてはいけない」と言う言葉だけ繰り返す。これは板門店旅行と似ている。

午後５時頃に高城港に到着した。そこ北朝鮮側出入国事務所で入国手続きを受ける。審査を受けるのに荷物を持って列を作って立っていた。録音専用機は搬入できないという。私の録音機が問題になった。絶対に持って行けないというのである。ガイドが強く主張したので，仕方なく彼女に任せるしかなかった。

いよいよ入国審査台に立った。北朝鮮審査員は私のパスポートを見て日本に対して質問を浴びせた。イラクに派兵したのかなど。私は医療関係者だけが選抜されて派遣されたという乏しい情報のみを伝えた。さらに イランについては分かるかと聞かれたので，分からないと答えた。しばらく対話を交わして出ると，私のかばんを調べようとする税関の女性たちが待っていた。彼女らはカメラや物品に対しては注意を払わない代わりに，日本に対する関心が強く「日本が良いか」などの質問があった。私は北朝鮮の審査員に，録音機の持ち込みができなかったと話すと，彼らは一斉に南側が北側を悪く宣伝するつもりでそうしたのだろうという。私は現代グループが恐怖危機感を助長して観光商品化しようとする意図だと感じた。船上ホテル419号に荷物を置いた。８時頃ホテルから日本の家に電話をかけた。

第２日目は，朝食は６時30分から７時30分までで７時40分に乗車した。出発時間は20分以上遅くなった。時間を守らない人がいるからだ。また温井閣に行って山のふもとの牡丹峰駐車場に行って組別に山登り，８時30分，山道を上がる。九龍瀧は全部凍っていて瀧といえない。北朝鮮人は一人も見あたらないのに，会ったらどうこうしなさいという注意だけが騒騒しい。

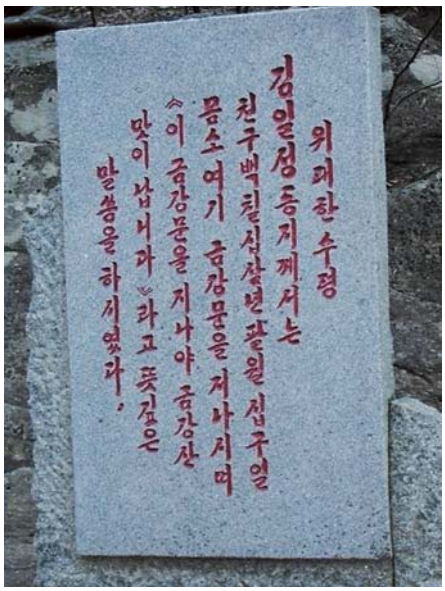
九竜瀧にはトイレがある。トイレを北朝鮮では「便所」と言うのにここでは中国式に「衛生室」と言う。自然保護という名目で使用料が小便１ドル，大便４ドルである。世界で一番高い有料トイレだという。トイレの使用料を徴収する人は北朝鮮の人々であり，４名もいる。その中の一人の女性はリップスティックをつけていた。きれいなワーカーをはき，黒い毛が付いたジャンバーを着ていた。みな金日成のバッチをつけていた。彼らは決まった場所に固定配置されたのではなくて，私たちに付いて移動するということが分かった。広い岩にはほとんど例外なく金正日，金日成の赤い色の宣伝文句が刻まれている。それとは別に岩には漢字名が刻まれている。そこに日本人の名前があるかと思い，見渡したがなかった。12時に牡丹峰駐車場で待機している車に乗り温井閣に行った。入った順に隅から座らせる。

食事中，となりに座っていた成氏が岩に刻まれた関東軍司令官の名前を見つけたという。私はそれを確認したかった。彼と一緒に現代グループの事務室に行った。現場監督の元氏は下山が終わった状況では車での移動はできないという。私は費用を負担してもよいから確認したいと言った。課長の承諾を得て貸切り車で再び行くことになった。運転手は中国朝鮮族で，元氏が携帯電話を持って成氏と私の計４人で山道を上がった。北側検問所で門を開いて検問を受けた。そこからさらに上がったらまた左側に警戒所がある。電話で連絡をしたところ自分たちが案内するから待つように言われた。北側事務室に連絡して案内者を呼んだ。

10分後に北側のジープが下ってきた。その車が先導して出発した。徐行する車窓から私は岩に刻まれた関東軍司令官の名前を見つけることができなかった。結局そのまま牡丹峰車駐車場に到着した。

折り返し下る時には先頭車と後続車に挟まれて保護された。私たちは速度を緩めて岩の名前を捜した。途中成氏は大声を出した。やはりあった。写真を撮ることができない所であるのみならず通りや車の速度によって目で確認するだけだった。「関東軍司令　李○○」という文字を読むことができた。

図５　金日成氏の訪問記念碑



この碑文を直訳すると次のようになる。「偉大な首領金日成同志様が1973年８月19日，御自らこの金剛門を通過し，この金剛門を過ぎてから金剛山の味が出る，との意味深いお言葉を賜った。」

４時30分に曲芸団の公演があった。しかし写真は全く許可されなかった。鉄棒に空中芸，二人が演じるコミカルな芸で笑わせる。それはロシアの曲芸の影響と思われた。金鋼山ホテルで夕食をした。バイキングであった。

第３日目は海金剛と三日浦に行った。温井閣から海金剛へ行く人は420人余りの中で22人しかいない。マイクロバスはほこりを巻き上げながら走った。ほとんど未舗装道路だ。先に案内員が歩いて行く後を私たちもついて歩いた。坂の上に車を止めて徒歩で海岸に行った。海金剛が意外に小さな規模なのに驚いた。それでも景色よりは北朝鮮の人々と対話を交わす時間がもてたのが良かった。北朝鮮の女のガイドが私をビデオカメラで撮ってくれたので子供にあげなさいと小さな物をプレゼントした。しかし彼女は未婚者だと言い，遠慮しながら受けとった。

そこから三日浦へ行った。「花より団子」式にみな金剛山の景色はそっちのけで，販売店でジャガイモ，肉の串焼き，焼きいも，ピーナッツなどを食べるのに夢中である。皆一皿当たり１ドルだ。丸いテーブルが５個置かれていた。朝鮮飴は４ドルで買った。

上の展望台まで歩きながら北朝鮮ガイドと話をした。その青年は元々ここで生まれて元山にある済大学で環境学を専攻し，こちらに配置されて来てから４年にもなるという。大学で自然に植物に関心を持つようになったという。彼は「日本という外国で生活するようになったか」，「どうして日本へ行ったか」，「共和国〔北朝鮮〕をどう思うか」など私に話を聞きたがる。

私の質問にも答えてくれた。「テレビがあるか，外部の消息が分かるか」と質問するとあると言う。日本人は好きだが日本国が良くない。最近日本からは文鮮明の統一教の信徒員たちが多く来る。日本で問題になっている拉致問題は全然分からな

図６　海金剛にて筆者

い。2人のロシア女性も観光にきていた。2時過ぎ休戦線を超えて韓国の入国手続きを経て，待機しているバスでソウルに7時半頃に到着した。

金剛山観光は，長い間分断されている同じ民族が，もう一方の民族の領土を訪れるという極めて特殊な観光である。韓国政府，北朝鮮，現代グループ，特に韓国政府の主導により北朝鮮の領土を訪れる政治的意味合いの強い観光である。1970年の「平和統一構想宣言」によって南北間の対話と交流・協力が始まり，1990年代からは北朝鮮に対して融和政策をとる金大中政権が本格的に融和政策をとって誕生したのが金剛山観光である。板門店観光では北朝鮮側に足を踏み入れることができなかったが，金剛山観光では北朝鮮の領土を踏み，北側の警備の中にいるということだけでも北朝鮮観光ともいえる。実際には，現代グループが作った施設のなかで，その社員によるサービスをうけるので，北朝鮮の実感はそれほど湧いてこないが。

私はこの金剛山観光に参加して，板門店観光と同じ脈絡から次のようなことを理解することができた。まず両方も南北関係の緊張の観光商品である。北朝鮮への「のぞき観光」のようなものは板門店観光があるが，韓国人には簡単に公開されていない。いわばのぞきのような観光として代表的なものは中国経由の白頭山観光と図門観光，トンネル観光，展望台観光などがある。それらの「のぞき観光」に比べると金剛山観光は踏み込むことができる旅行であり，観光である。しかしそれものぞき観光のレベルをあまり超えていない。北朝鮮はのぞくことしかできない。いかに北朝鮮が閉鎖的であるかを意味する。同時に北朝鮮からも休戦線を超えることができない。

一般の観光に比べると金剛山観光は自然体験やホラーなどを体験するようなものである。つまり伝統的なイメージに加え，南北分断の緊張関係からのイメージで形成された観光である。さらに離散家族の再会も行われ，政治観光ともいわれる。沈没した戦艦のあるパール・ハーバーやアウシュヴッツ強制収容所が観光化されたのと軌を一にする。それらは戦争を忘却させるのではなく戦争の記憶を掘り起こす観光といえる。

1）Roy Richard Grinker, The‘Real Enemy’of the Nation: Exhibition North Korea at the Demilitarized Zone, Museum Anthropology 19（2）, American Anthropological Association, 1995：31-40.

2）崔吉城「朝鮮半島の南北分断と『敵対双方』の観光化」『アジア社会文化研究』広島大学大学院国際協力研究科アジア文化講座アジア社会文化研究会，2000。

3）1910年，温井里に初めて旅館が営業する。1913年，朝鮮総督府鉄道局が金剛山観光開発を宣伝する。1914年，旅館兼雑貨店3～4軒が営業。1915年，京元線方面からの道路が整備される。朝鮮鉄道局の金剛山ホテルオープン。1924年，長安寺の極楽殿を「ホテル」と「バンガロー」に改築。1931年，旅館，料亭，店舗，写真館ができ，写真集や絵葉書を販売。

4）「小学校地理映画体系」千葉映画製作所，東日本/大阪毎日新聞社フイルムライブラリ（無声，約15分）

5）Tokyo-Peking through Tyosen and Manchoukoku BTI Camera, Music M. Segahara, 1938年（13分）

6）李良姫，「韓国における‘安保観光’に関する研究」（広島大学大学院博士論文，2003）